

ペヘレイ (トウゴロウイワシ科)

学名 : *Odontesthes bonariensis*

大きさ : 全長 50 cm

特徴 : 体形は長紡錘形で、体側に幅広い銀色の顕著な縦帯が走る。背びれは2基ある。小型のワカサギとは脂鱗の有無（ペヘレイにはない）や胸鱗の位置（ペヘレイは体側中央、ワカサギは体側腹部寄り）、背びれの数（ワカサギは1つ）などで見分けることができる。

国内の分布 : 霞ヶ浦・北浦，神奈川県津久井湖や相模湖など。各県で放流，研究が行われた。

県内の分布 : 霞ヶ浦北浦。霞ヶ浦では1988年に初めて生息が確認され，1994年から漁業でもよく混獲されるようになった。

県内での生態 : 表層を遊泳しており，動物プランクトンを主としてイサザアミ，水生昆虫，小型のテナガエビなど広く摂餌する。

産卵期は4～5月の春が主で，秋にも産卵していることが示唆されている。卵は水生植物などに産み付ける。春に生まれたものは，ふ化後1年で体長約15 cmに，2年で25 cm以上に成長する。オスは生後1年で，

メスは生後2年で産卵するようになる。

備考 : 南米原産の魚で，1966年にアルゼンチンから神奈川県に卵で移入されて以来，各県で増養殖に関する研究が行われた。本県でも1986, 87年に養殖技術開発を目的に飼育試験が行われた。現在の霞ヶ浦・北浦での生息は，この飼育魚の一部が散逸し定着した可能性は否定できない。

美味しい魚で，原産地では遊漁や食用の対象魚として珍重されており，日本でも“淡水キス”などとして食用とされている。しかし本県ではまとまった漁獲がないことや認知度が低いことなどから低利用にとどまっており，むしろワカサギとの混獲による選別の手間になるなど問題になることも多い魚である。

主な文献 :

根本 孝 (1995) 霞ヶ浦におけるペヘレイ (*Odontesthes bonariensis*) の生態-I. 茨城内水試調査研究報告, 31: 23-29.

半澤浩美・久保田次郎・堀 直 (2004) 霞ヶ浦におけるペヘレイ (*Odontesthes bonariensis*) の生活史. 茨城内水試調査研究報告, 39: 42-51.